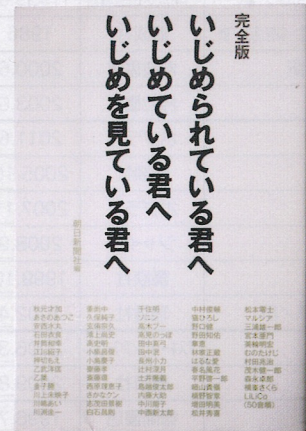


いじめられている君へ いじめている君へ
いじめを見ている君へ **完全版**

朝日新聞社／編 秋元 才加／ほか著 朝日新聞出版

タレント、スポーツ選手、学者など著名人63人から「君」へ、「いじめ」・命についてのメッセージ。新聞掲載を加筆・修正し単行本化。年齢も活躍の場もそれぞれ異なる人たちが、自分の経験や思いを飾らない言葉で語っている。中には反発を覚える意見もあるかもしれない。でも、書名が示す「君」が、自分のことかもしれないと気づけたあなたに、共感できるメッセージを見つけて力に変えていくことができるはず。



カラー版 福岡
-アジアに開かれた交易のまちガイド-

武野 要子／編 岩波書店

アジアに開かれた町『福岡』のことを古代の昔から現在まで歴史の流れに沿って紹介した、魅力満載のコンパクトなガイドブックである。

「なぜ、福岡市のJR駅名は博多駅？」「素麺、うどん、饅頭の発祥の地は福岡？」みなさんは、自分が住んでいる町のことを知っているだろうか。

この本は修学旅行ガイドとなっているが、福岡の歴史や文化など福岡のことをもっと知りたい人には最適な本である。



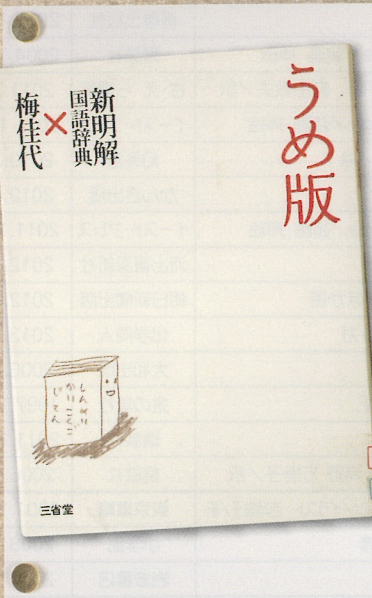
YAブックリスト

(12歳から18歳向け)

うめ版：新明解国語辞典×梅佳代

梅佳代／写真 新明解国語辞典／文 三省堂

国語辞典を、勉強に使うだけの堅苦しくて面倒なやつだと思っているあなたにこそ出会ってほしい一冊。写真家、梅佳代による、着眼点が冴えている写真と、『新明解国語辞典』の個性的な語釈の見事なコラボレーションが楽しめます。思わずニヤリとしたあと、少し悔しい気持ちになったところで「悔しい」のページを開いてみましょう。この本を気に入ったら、次は梅佳代の他の写真集を見るもよし、国語辞典を見直すもよし。



ウィエー YA (Young Adult<ヤングアダルト>の略)とは、12歳から18歳の頃の児童と成人の間に位置する年齢層のことで、この年齢層に適した本をヤングアダルト向け図書と呼んでいます。

福岡市総合図書館及び分館では、ヤングアダルトコーナーを設け、魅力ある本を集めています。

空の名前

高橋 健司／写真・文 角川書店

雲、雨、霧、雪、氷、光、風が季節の移ろいの中でみせるさまざまな表情の写真と、それを表現した名前が綴られている本。

ばらばらとページをめくりながら、どこかで見たような・・・と思いながら、読むというより、まず写真を眺めるだけでも楽しめる。

そして、雲、雨、霧、雪、氷、光、風の表情は、実は気象現象なのだが、その名前には日本語の繊細さ、奥深さ、豊かさが感じられ、巧みな表現に感心してしまう。

思いだした時に、好きなページをぱっと開いて読める本である。



ポケット詩集

田中和雄／編 童話屋

いい詩には、人の心を解き放ってくれる力があり、読むと優しい気持ちになったり、疑問や悩みがぱっと解けたりする。このポケットサイズの小さな詩集には、そんな力を持ったとびきりの詩が収められている。まど・みちお「くまさん」のようにホッとさせる詩、茨木のり子「自分の感受性くらい」のようにドキリとする詩。あなたの心に響く一編がこの中にきっとあると思う。『ポケット詩集』は現在第三巻まで出ており、詩の入門書としてもおすすめである。



農業がわかると、社会のしくみが見えてくる
-高校生からの食と農の経済学入門-

生源寺 真一／著 家の光協会

世界の食料、日本の農業と日常の食卓とのつながりについて教えてくれる本。解説は、世界の食料から、日本の農業を経由し、私たち消費者へ到達するという流れですすめられる。

説明は、統計データの裏付けがあり、とっつきにくいと感じるかもしれないが、「世界の食料問題で食生活を改善しよう」と取り組んだことが、食料価格の上昇を招く」とか、「日本の食料自給率は約40%だが98%の国でも栄養不足なのはなぜ？」等、しくみが見え明かされることが多い。

生きてゆく上で最低限欠かせない食料のことを未来に向かう若い世代に意識してもらいたい。



センス・オブ・ワンダー

レイチェル・カーソン／著 上遠恵子／訳 新潮社

この本は、科学者レイチェル・カーソンが幼い甥と一緒に自然を探検した体験をもとに書かれた短いエッセイで、「センス・オブ・ワンダー」（自然の神秘さや不思議さに目を見はる感性）を育むことの大切さが綴られている。レイチェルは私たちにこう語りかける…「地球の美しさと神秘を感じとれる人は、人生に飽きて疲れたり、孤独にさいなまれることは決してないでしょう。たとえ生活の中で苦しみや心配ごとにてあったとしても、必ずや生きていくことへの新たなよるこびへ通ずる小道を見つけ出すことができると信じます」。



ぼくは「つばめ」のデザイナー
-九州新幹線800系 誕生物語-

水戸岡 鋭治／著 講談社

九州新幹線「つばめ」の車体の色はなぜ赤と白と黒なのか、列車の先頭部分の「顔」はどうしてでき上がったか、木材の椅子に、西陣織のクッション、蘭草ののれんの洗面室にデザイナーが込めたものはなにか。デザイナー水戸岡鋭治が語るその誕生物語。と同時に彼のデザイナー人生や、今までの仕事も語られ「水戸岡鋭治誕生物語」でもある。九州に住む私たちには馴染みのある車両の多くが彼のデザインだったのかと驚いてしまう。

全ページの下段には物語の進行にそった彼の自身のデザイン画がスツキリと並び美しい。

鉄道に興味のある人、デザイナーという職業に興味のある人は勿論、そうでない人も充分楽しめる1冊。



